

有限会社北辰工業所

高岡銅器に新たな息吹を吹き込もうと「FUKITO」を開発。全国へ



◀ FUKITOを用いての調理の盛り付け例。

定塚康宏社長は、根っからの鋳物職人である。鋳物づくりが国家資格化された時、「特級鋳造技能士」の資格を、「いの一番」でとった。第1期、全国4人のうちの1人であった。ものづくりが好きでたまらず、従来の主力商品である学校や会社の銘板、鯛焼きやオリジナルせんべいの型などの他に、鋳物の技術を生かしたもう一品が欲しいとかねてより思っていたことを行動に移したのだ。

時は平成24年であった。定塚社長が振り返る。「身近なところで使う、『鋳物っていいな』と提供いただける日用品をつくりたいと思っていたのですが、知人に『専門家派遣事業』のことを教えてもらい、デザイナーの指導を受けることにしたのです」

その時に取り組んだのは、繊細な意匠を凝らした金属製のプランターなどの建築金物である。ガーデニングへの関心が年を追うごとに高まり、それらニーズに応えた製品をつくることを企画したのであった。

失敗の教訓を生かして再チャレンジ

ところが試作品をつくる過程で、大きな課題が浮かび上がってきた。これから作るプランターなどの販路は、従来の銘板とも焼き型とも違って、同社としては未知の世界であったのである。

「つくることに一生懸命だった私は、販路開拓までは考えていなかったのです。私の大失態ですわ」

定塚社長は頭をかきながら語るが、プランターのデザイン開発や試作のかたわら、派遣されてきた専門家から当機構の他の支援メニューを詳しく聞き、もう少し方向性を定めて再度チャレンジすることを決めたのであった。

そして迎えた平成26年。鋳物の技術を活用して、飲食店向けのアルミ製食器の開発を「地域資源ファンド事業」の採択を受けて開始。この事業は、富山県の地域資源（この場合は高岡銅器の鋳物技術）を生かして商品開発を行い、合わせて販路開拓の支援も



▲ 食器FUKITOシリーズは2016年度のグッドデザイン賞を受賞し、販促活動に弾みがつく。

行うもの。商品のデザイン開発には2年前のデザイナーも加わり、3年間腰を落ち着けての商品開発、販路開拓に取り組むことになった。

「アルミは熱伝導がいいですから、温めやすい、冷やしやすという性質があります。また軽くて割れないという特性もあります。デザイン開発にあたっては3Dプリンターでモデルを制作し、意匠性を高めるとともに少量からの受注が可能になるように配慮しました」（定塚社長）

支援初年度の夏には試作品ができ、さっそく9月に予定されていた国際ギフトショー2014に出展。一見、銀のお皿に見えるため注目を集め、飲食店関係者が次々と手にとり、意外と軽いと知ってアルミ製と思いついた人が多かったそう。ただアルミ製と知って今度は逆に、「それにしては重すぎる」という反応を示した人も多かったという。

「来場者の反応を見て、改良を加えるためにギフトショーに出展したのです。ですから、意外に重いというご意見をいただいたので、皿の裏を削ることにしました。またあるレストランのシェフからは、もう少し小さい方が使いやすい、とアドバイスいただき、小振りにする方向で検討しました」と定塚社長は初出展時の、来場者のアドバイスを紹介してくれたが、翌年の展示会では「洗って乾かした後、皿を重ねて収納する時、皿が滑らないような工夫が必要だ」など、別の角度からの助言もいただき、その後も改良を続けることになった。

Gマーク認定を契機にさらに……

未来の消費者の意見をもとに改良を重ねてきた支援2年目（平成27年）の秋、お皿のデザインアドバイザーから「商品としての完成度が高くなってきたから、来年の秋までにもう少し改良を加え、グッドデザインに

ある保険会社の顧客向け広報誌。グッドデザイン賞を受賞した商品を応援するために、FUKITOを表紙で紹介した。



▲ インターナショナル・ギフトショーに出展した際の同社のブース。

応募してみよう」と誘われ、合わせてお皿の意匠登録も薦められた。

「町工場の商品がグッドデザインなんて、と思いましたが1年近くかけて準備をし、応募しました。その際にはグッドデザインの事務局を訪れて商品説明をしますが、その年は確か2000点前後の応募があり、『これは期待薄かな』と思いつながら北陸新幹線で帰ってきたことを覚えています」と定塚社長は語ったが、それから1カ月後にGマーク認定の知らせを受けたのだ。

この発表の後、デパートやセレクトショップ、通販の業者などが、フェア等に商品を出品しないかと誘い始めた他、金融機関が主催する展示会にも全国4カ所に参加。またある保険会社が顧客向けに発行している広報誌の表紙に載せるなど、告知の機会を得る中で小ロットの受注や100枚単位のレンタルの申込みを受けよう。「今後は常設で販売していただくお店を開拓していかなければならない」と職人社長は商人（あきんど）の顔をして微笑んだ。

Profile

所在地 高岡市戸出栄町45-5
 資本金 600万円
 従業員 3名
 事業 鋳物製品の製造販売
 TEL 0766-63-5538
 FAX 0766-63-5539
 URL <http://www.hoxsin.com>



「北辰は北極星を表し、鋳物の世界で一番を目指すという心意気から先代が社名にした」と定塚康宏社長。手にしているお皿は開発初期の試作品。